

2019年9月18日

【新刊発売のご案内】

「ほんとうの『哲学』の話をしよう —哲学者と広告マンの対話—

著：岡本裕一郎（玉川大学文学部名誉教授）、深谷信介（博報堂ブランド・イノベーションデザイン副代表）

博報堂ブランド・イノベーションデザイン副代表の深谷信介と、玉川大学文学部名誉教授の岡本裕一郎氏が、「ほんとうの『哲学』の話をしよう —哲学者と広告マンの対話—」を共著出版いたしましたので、お知らせします。

本書は、「広告」と「哲学」という対極的ともいえる立場から、それぞれの本質的な問いをぶつけ合うことでこれからの視座を見出すことを試みた、これまでにないアプローチの対談本です。

ビジネスやマーケティングの大切な要素の一つである「広告」と、ビジネスとは縁遠いイメージのある「哲学」という二極から議論をはじめたところ、思わぬ共通性が見出されました。

テクノロジーの飛躍的な発展によりビジネス界を取り巻く環境が急速に変化し、いままでのやり方・考え方が有効性を失う中で、私たちはどのように考え、いまの世の中をどう見ていくべきか。企業を、商品・サービスをどのように見つめ、テクノロジーにどう向き合い、いかにして新たなコンセプトを構築すべきか。対談を通じて見出された「広告」と「哲学」の共通項から、先の見えない時代のビジネス課題に立ち向かうためのヒントを提示しています。



「ほんとうの『哲学』の話をしよう —哲学者と広告マンの対話—

著：岡本裕一郎、深谷信介

仕様： 四六判、296 ページ

定価： 本体 1,600 円 + 税

発行： 中央公論新社

書店発売日： 2019年9月18日（水）

目次 (抜粋)

プロローグーある訪問

Day1 まず、誤解を解いておきましょう

1. そもそも哲学とは
2. そもそも広告とは
3. そもそも人間とは

Day2 いま、こんなことが起きています

1. 哲学への注目
2. 広告の危機
3. 大メディア革命

Day3 哲学についておさらいしましょう

1. ポストモダン
2. 間主観性
3. 心
4. 新しい哲学の予兆

Day4 広告の問いは、興味深いです

1. リアルとバーチャル
2. 意志と意識
3. 記憶と忘却

Day5 哲学の大事なことを話します

1. 概念を創る
2. 見え方を更新する
3. 問いを立てる
4. 人間と社会のゆくえ

ある夕暮れ 次なる世界が見えますね

○著者プロフィール

岡本裕一朗 (おかもと・ゆういちろう)

1954年福岡県生まれ。玉川大学文学部名誉教授。九州大学大学院文学研究科哲学・倫理学専攻修了。博士(文学)。九州大学助手、玉川大学文学部教授を経て、2019年より現職。西洋の近現代哲学を専門とするが興味関心は幅広く、哲学とテクノロジーの領域横断的な研究をしている。著書『いま世界の哲学者が考えていること』(ダイヤモンド社)は、21世紀に至る現代の哲学者の思考をまとめあげベストセラーとなった。他の著書に『フランス現代思想史』(中公新書)、『12歳からの現代思想』(ちくま新書)、『モノ・サピエンス』(光文社新書)、『ヘーゲルと現代思想の臨界』(ナカニシヤ出版)など多数。

深谷信介 (ふかや・しんすけ)

1963年石川県生まれ。(株)博報堂 博報堂ブランド・イノベーションデザイン副代表、スマート×都市デザイン研究所所長。名古屋大学未来社会創造機構客員准教授、富山市政策参与他。慶應義塾大学文学部人間関係学科卒業、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修了。博報堂では、事業戦略・新商品開発などのマーケティング/コンサルティング業務・クリエイティブ業務やプラットフォーム型ビジネス開発に携わり、都市やまちのイノベーションに関しても研究・実践をおこなっている。著書に『未来につなげる地方創生』(共著、日経BP社)、『スマートシティはどうつくる?』(共著、工作舎)などがある。